

<研究ノート>

## 古代スラヴ語文献の新たな校訂テキスト出版に寄せて On New Editions of the OCS Manuscripts

金指 久美子  
Kumiko Kanazashi

東京外国語大学大学院総合国際学研究院  
Tokyo University of Foreign Studies

**要旨:** 本稿は、20世紀後半に発見された古代スラヴ語文献の校訂テキスト出版に関する新たな活動を報告する。まず、1960年に発見された損傷の激しい『エニナアポストル』を新たな技術で撮影し、その写真をもとにした校訂テキストを紹介する。次に、1975年にシナイ半島の聖カタリナ修道院で発見された古文書のうち、『シナイ詩篇』の校訂テキストを、続いて『ディミートリーの詩篇』と『医療断片』のファクシミリ版および校訂テキストの出版を報告する。

**Abstract:** As addenda to my article in 2002, this research note reports on new editions of the OCS manuscripts discovered in the latter half of the twentieth century: the Enina Apostolus, the Psalterium Sinaiticum, the Demetrius Psalter and the Medical Folia.

**DOI:** <https://doi.org/10.15026/0002000370>

**キーワード:** 古代スラヴ語, エニナアポストル, シナイ詩篇, ディミートリーの詩篇, 医療断片

**Keywords:** OCS, the Enina Apostolus, the Psalterium Sinaiticum, the Demetrius Psalter, the Medical Folia

### 1. はじめに

古代スラヴ語文献はそのほとんどが19世紀末までに発見され、校訂テキストも写真、活字によるテキスト、注釈、語彙集をそろえた信頼できる形式のものがすでに20世紀の間に次々と出版された。しかし、20世紀後半に発見された文献に関しては、新たな校訂テキストの出版が最近連続している。本稿は、古代スラヴ語文献の発見の経緯と校訂テキスト出版の過程を以前にまとめた論文(金指 2002)を補うものとして、オーストリアで展開するこれらの活動を報告する。

### 2. 『エニナアポストル』

39葉からなるこのキリル文字文献は、1960年にブルガリアのエニナにある聖パラスケヴァ教会の修復作業中に発見された。内容はアポストル、すなわち使徒書簡および使徒行伝の典礼用抜粋であり、11世紀に成立したと考えられる。発見された39葉のうちのいくつかは切れ端といってもよい状態のもので、しかも黒ずんだ羊皮紙に書かれていたため、肉眼では判読しづらい箇所が見受けられる。ミルチェフとコドフは教会文献に関する豊富な知識に基づき、判読できない箇所は[ ]の中に推定した文字を補った上で、1965年に白黒写真を



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

添えた校訂テキストを出版した (Мирчев, Кодов 1965). さらにカラーのファクシミリ版もコドフの序文つきで 1983 年に出ている<sup>1</sup>.

1965 年の校訂テキスト出版から半世紀ほど経った 2017 年、「古代教会スラヴ語グラゴール文字手稿の起源」という名称のプロジェクトがミクラスを筆頭にオーストリア科学基金の援助によって発足した。プロジェクト名からは、キリル文字文献の『エニナアポトル』は除外されるような気がするが、損傷が激しく肉眼では判読できない箇所がいくつもあるこの文献が選ばれた。このプロジェクトではグラゴール文字文献のみならず初期のキリル文字文献も対象とするというのが、その理由である。同年 9 月にこの文献の写真撮影が新たな技術を用いてなされ、その写真をもとにブルガリアの研究者たちの協力を得て、2022 年に新しい校訂テキスト (Christova-Šimova eds. 2022, 以下新版) が出版された。全 230 ページからなるこの校訂テキストは、1965 年のミルチュフ・コドフ版 (Мирчев, Кодов 1965, 以下旧版) にはない分野の研究が添えられている。すなわちテキスト校訂学的分析、アポトルの暦、典礼におけるこのアポトルの使用に関する研究である。文字学的なアプローチに関しては旧版でもなされているが、新版ではグラゴール文字がキリル文字に与えた影響に焦点を当てて語られる。ここまではブルガリア語による執筆である。最後に写真撮影の方法およびその写真分析と羊皮紙やインクの化学分析の結果が、タイトルのみブルガリア語で、本文は英語で報告されている。

上記の研究や報告、参考文献、略号一覧、さらにブルガリア語、ドイツ語、英語、ロシア語による概要等は前半に配置され、校訂テキストそのものは 124 ページから始まる。左ページに新たに撮影された写真 (白黒)、右ページに校訂テキストという構成である。右ページの上は 2 列に分かれており、左側に旧版の校訂テキスト、右側に新版の校訂テキストが並べられている。下は列に分けることなくギリシア語の該当箇所のテキストがわかる限り添えられた。旧版は聖書の中の該当箇所 (章と節) のみが提示されただけだったので、これも新しい点である。そのギリシア語テキストの下に、旧版にあった注釈や推定に対する確認および修正がブルガリア語で加えられた。

写真を旧版と比較すると、技術的な進歩によって黒ずみがかかり取れて文字が鮮明に浮き出ていることがわかる。そのため、校訂テキストも旧版にあった推定箇所[および判読不明箇所...]が著しく減少し、文字が入っている。新版では判読できない箇所に 2 種類の記号を用いる。{} は破損・損傷によるものである。かなりの確率で推定できる場合はこの記号の中に文字が入っており、どうしてもわからない場合には...が入っている。[] はインクが色褪せたりこすれたりした結果見えなくなった箇所である。記号{}と同様に、推定できる場合はその中に文字が、推定できない場合は...が入っている。旧版よりも鮮明な写真のおかげで、ある程度読めていたとはいえどう解釈すべきかわからなかったところも新版で解決した。たとえば 9 葉目の裏に旧版では **ВЪЗМЪЗМЪЗДЪЕ** と読める語がある。これは **ВЪЗМЪЗДНІЕ** 「報酬」であろうと推測されていたが、なぜこのような形になっているのかは不明のままだった。そのため、この語の後ろには(sic)と添えられていた<sup>2</sup>。そこが新版では **ВЪЗМЪЗМЪЗДЪЕ** と余計な部分を消した線が写真によりはっきり確認できたのである。以上のように、全体としては旧版の推定箇所や判読不明箇所が新版で減少したとはいえ、新版の方がむしろ推定あるいは判読不能となった箇所もある。たとえば 7 葉目の裏の 1 行目は旧版で **НАШЖ** と記号なしで書かれているのに対して、新版では **н[ашж]** とインクが不鮮明で読めないが、かなりの確率で推定できるという扱いに変わった。このような点は、発見されてから経過した年月のためという解釈が可能であろう。しかし、6 行目の **[Бр]агѣѣ** と推定されていた箇所が新版では {...}агѣѣ と破損のため推定不能となっている点は、どう解釈すべきかわからない。この文献はアポトルなので、ギリシア語文献をはじめとする複数の文献をもとに推定できるのではないだろうか。どうして推定不能という判断に変わったのか、この部分に関して解説は特についでいない。

<sup>1</sup> Кодов, Христо. 1983. *Енински апостол. Факсимилно издание с предговор от Христо Кодов*. София : Наука и изкуство.

<sup>2</sup> 新版では(sic)は(!)に置き換えられている。

『エニナアポストル』の新たな校訂テキストは、古代スラヴ語研究を一步進めるための貴重な成果である。ただし、残念な点もある。まず、168 ページに掲載された 12 葉目の表の写真は 164 ページの写真と同一である。つまり、11 葉目の表の写真が 168 ページにもなぜか載ってしまい、本来あるべき 12 葉目の表の写真は消えてしまった<sup>3</sup>。さらに、せっかく新しい技術で読めるようになったのだから、旧版のように新版にも語彙集をつけてほしかった。

### 3. 聖カタリナ修道院で発見されたグラゴール文字文献

1975 年にシナイ半島の聖カタリナ修道院で発見された古文書のうち、スラヴの言語で書かれた文献を分類して計 41 点であるとし、それぞれに解題をつけて発表したのがタルナニディスであった (Tarnanidis 1988)。そのうち、古代スラヴ語文献は『シナイ詩篇』と『シナイ祈祷書』と見なされていた。

#### 3.1. 『シナイ詩篇』

『シナイ詩篇』はベネシェヴィチが 1907 年に撮影した写真をもとに、セヴェリャーノフが 1922 年に校訂テキストを出版した (Северьянов 1922, пер. 1954)。これは旧約聖書の詩篇の第 1 篇から第 137 篇であった。第 1 次世界大戦およびロシア革命の混乱の中、ベネシェヴィチの撮影した『シナイ詩篇』の写真は発表されず、多くの人の目に触れることはなかった。結局、実際にどのような筆跡で記されていたのかは、校訂テキストの出版から半世紀後にファクシミリ版がスコピエから出るまで (Altbauer 1971) 待たなくてはならなかったのである。

新たに発見されて Tarnanidis (1988) によって分類番号 2/N の付された『シナイ詩篇』に関しては、87–91 ページに解題があり、発見された 32 葉すべての白黒写真が 249–281 ページに掲載されている。詩篇はすでに知られていた『シナイ詩篇』の続きで、第 138 篇から第 151 篇に相当する。これで古代スラヴ語文献の詩篇はすべてそろったことになる。しかし、詩篇は 12 葉目の表までで、残りは 15 の頌歌である<sup>4</sup>。分類番号 2/N の写真をもとに校訂テキストに取り組んでいたのが、ウィーン大学で活動していたチェコ人研究者マレシュであった。1994 年に彼が死去した後は、ハウプトヴァーやコンザルらが中心となって作業を続行し、1997 年に完成させた (Mareš eds. 1997)<sup>5</sup>。上掲の『エニナアポストル』の新たな校訂テキスト出版に向けたプロジェクトの筆頭者であり、かつ後述する『ディミートリーの詩篇』および『医療断片』のファクシミリ版と校訂テキストの出版に主要な役割を果たしたミクラスが序を執筆している。その後に参考文献、解題とローマ数字の打たれたページが 23 ページまでである。それからキリル文字転写されたテキストが左ページ、右ページに注釈という構成で、通常の算用数字の打たれたページが 133 ページまで続く。付録としてギリシア語テキストと頌歌の対応表があり、どの歌が 70 人訳聖書や他の教会スラヴ語文献でどのように位置づけられているのかが一覧できる。そして最後に語彙集という構成で、全部で XXIII+201 ページからなる。マレシュ亡き後に校訂テキストを仕上げ出版にまでこぎつけた上掲の人たちは、チェコスロヴァキアおよびチェコでほぼ 30 年にわた

<sup>3</sup> 書籍としてはこのような事態のまま出版されてしまって残念ではあるが、付録の USB メモリには 12 葉目表もしっかりと収録されている。そこに収められた写真は、さまざまな技術を用いて撮影された同一ページを白黒以外でも見ることができるし、拡大も可能である。このような USB メモリは後述する『ディミートリーの詩篇』と『医療断片』(Miklas eds. 2021) にも添えられている。

<sup>4</sup> 具体的には、出エジプト記第 15 章、申命記第 32 章 1-43、ハバクク書第 3 章 1-19、イザヤ書第 26 章 9-20、ヨナ書第 2 章 3-10、サムエル記上第 2 章 1-10、イザヤ書第 38 章 10-20、マナセの祈り 1-15、ダニエル書第 3 章に付加された補遺 26-51, 52-56, 57-88, ルカ伝第 1 章 46-55, 68-79, ルカ伝第 2 章 29-32, そして最後は徹夜禱グロリアである。

<sup>5</sup> 出版年から鑑みて金指 (2002) で言及すべきであったが、抜け落ちてしまったため、本稿で取り上げる次第である。

って刊行された『古代スラヴ語辞典』(Kurz eds. 1966-1997)の編集にも携わり、完成させた。そのため、新発見の『シナイ詩篇』の語彙は、『古代スラヴ語辞典』の補遺に組み込まれて、現在も刊行中である。

### 3.2. 『ディミートリーの詩篇』と『医療断片』

『シナイ詩篇』の次は、やはり写真がすべて掲載されていた『シナイ祈祷書』の校訂テキストかと期待してしまっただが、そうではなかった。発表されたのは、Tarnanidis(1988)が91-100ページにかけて解題を付した『ディミートリーの詩篇』(分類番号3/N)であった。これは145葉からなるグラゴール文字文献で、「シナイのグラゴール文字文献—古代教会スラヴ語の伝統」プロジェクトの一環としてオーストリア科学アカデミーから出版された。Tarnanidis(1988)では21葉目の写真が193ページに掲載されただけであったが、2012年にその写真が145葉すべてファクシミリ版として発表され(Miklas eds. 2012, 以下ファクシミリ版)、さらに2021年にキリル文字転写された校訂テキストが出版されたのである(Miklas eds. 2021, 以下校訂テキスト)。この文献は1冊に綴じられた書物という形態を取っているが、141葉目と142葉目の間に3枚の双葉が挟み込まれており、その内容がこれまでのような教会関係ではなく医療関係であったという理由によって、早くから注目されていた。この部分は、Tarnanidis(1988: 99)がキリル文字に転写したテキストをすでに発表していたものの写真はなかったため、2012年のファクシミリ版によってはじめてどのように書かれているのか見て、確認することができるようになったのである。

『ディミートリーの詩篇』という文献名はタルナニディスによる<sup>6</sup>。内容は詩篇で、第1篇から第151篇まですべて揃っており、かつ使用者ディミートリーによる後世の書き込みが多く見られるからである。このディミートリーの依頼と思われる匿名の人物もラテン文字の小文字アルファベットを書き込んでいるが、文献名としては名前のはっきりしているディミートリーを冠して名づけられた。新たに出版されたファクシミリ版および校訂テキストもタルナニディスの命名にしたがって『ディミートリーの詩篇』と呼ぶ。しかし、挟み込まれていた医療関係の文書は書き手も異なることから『医療断片』(*Folia medicinalia*)と新たに別に名づけ、扱いも分けている。

ファクシミリ版は全部で302ページある。タルナニディスによる巻頭言の後に、参考文献やこの文献の位置づけ、文字学的な分析が続く。中心は文字に関する分析で、写真を交えて非常に詳細である。ファクシミリ版の段階で、ディミートリーは当初想定されていた東バルカンではなくディオクレイア、別名ゼータ(セルビア語でドゥクリャ)出身で、シト方言の話し手であろうとTarnanidis(1988)を修正している。『医療断片』に関してもそれまでの先行研究がまとめられている。それによると、22の薬の製造法と修道院の外でそれらの薬を用いる治療者のための覚書という内容のみならず、単数主格形に *кры*「血」という形態が出現することでも古代スラヴ語研究の世界では注目を集めた文献であることを指摘した上で、書き手はクロアチアからスロヴェニアにかけての出身と推測する。しかし、どちらの文献もシナイに持ち込まれたのではなく、この地で成立したと主張する。そして、成立年代はTarnanidis(1988)の推定した12世紀ごろではなく、もう少し前の11世紀60年代終わりごろではないかと修正が加えられた。古代スラヴ語研究の世界では、この言語の地方的な特色が強まり、セルビア教会スラヴ語、ロシア教会スラヴ語等と分かれるのは12世紀であるという一応の線引きがなされている。ファクシミリ版の推定が正しいとするならば、『ディミートリーの詩篇』と『医療断片』はブルガリア語・マケドニア語の特徴を有すべきとされる古代教会スラヴ語の「カノン」には入らない可能性が高いが、成立年代を根拠として地方的変種を広く含めようとする古代スラヴ語文献とはいえそうである。カラー写真は146ページから『ディミートリーの詩篇』、298ページから『医療断片』が掲載されている。

<sup>6</sup> この文献を日本で最初に紹介した千野(1989)は『至聖所僧ディミートリーの詩篇』としたが、タルナニディスの命名が *Psalterium Demetrii Sinaïtici* なので、本稿でもタルナニディスに倣って簡単に『ディミートリーの詩篇』とすることにした。

校訂テキストの方は 540 ページある。分類番号の表示がファクシミリ版では Tarnanidis (1988)と同じく N/3 であったが、こちらでは NF3 となっている。参考文献や略号一覧などの後にドイツ語による序でファクシミリ版が発表されてからの反響や研究の進捗が具体的かつ詳細に綴られる。それによると、『ディミートリーの詩篇』の成立年代は 1058 年から 1066 年、『医療断片』の成立年代は 1046 年から 1056 年とファクシミリ版より具体的な年代が挙げられた。さらに、主としてディミートリーによる後世の書き込みは 1083 年から 1106 年であろうとも推測されている。また、このディミートリーの出身地がファクシミリ版でディオクレイア（ゼータ）と推定されたことから、セルビアの研究者たちの注目を集めて『ミロスラフ福音書』との関係を指摘する研究が発表されるようになったことが紹介されている。加えて『ディミートリーの詩篇』への書き込みの半数近くは『聖グレゴリウスの祈祷』として知られるラテン語文献に内容が類似しているという指摘がなされたことは (Stankovska 2015)、ファクシミリ版が出版されてからの大きな進歩であるという評価がなされた。『聖グレゴリウスの祈祷』の古代スラヴ語訳はボヘミアのサーザヴァ修道院でなされていたという説がある<sup>7</sup>。そのため、校訂テキストの序では、西スラヴ出身の修道士たちがシナイ山でグラゴール文字文献の筆写に活発にかかわっていた可能性を今後さらに検討する必要があると示唆されている。

序の後にキリル文字転写の際の方針が提示され、その後に『ディミートリーの詩篇』の解題、注釈つきドイツ語訳、語彙集が続く。次に『医療断片』である。こちらも解題、注釈つきドイツ語訳、語彙集と同様の構成を取る。それに続いて写真撮影に関する技術的な報告と論考が付されている。ここまでがドイツ語で発表された。その後の概要はドイツ語、ギリシア語、ロシア語、英語で書かれている。キリル文字転写による校訂テキストは 185 ページから始まる。『ディミートリーの詩篇』の方のキリル文字転写されたテキストでは、ディミートリーによる書き込みは斜体字になっており、詩篇そのもののテキストと字体を分けて示されている。『医療断片』は、既述のようにタルナニディスがキリル文字転写をし、それもある程度修正されてはいた<sup>8</sup>が、ファクシミリ版と照らし合わせつつさらに修正が加えられた。

#### 4. まとめ

シナイ山の聖カタリナ修道院で発見されたグラゴール文字文献はあわせて 5 点存在する。「シナイのグラゴール文字文献—古代教会スラヴ語の伝統」プロジェクトは、すでに校訂テキストが出版された分類番号 2/N 『シナイ詩篇』(Mareš eds. 1997)を除いてそのすべてを『ディミートリーの詩篇』および『医療断片』のような形で発表することを目的としているという。分類番号 1/N の『シナイ祈祷書』は Tarnanidis (1988)に写真がすべて掲載されたので、これは校訂テキストの出版のみになるかもしれない。分類番号 4/N の『小月課経』(Small menaion)と分類番号 5/N の『シナイ典礼書』に関しては、このプロジェクトのおかげでファクシミリ版と校訂テキストを目にすることができそうである。また、『エニナアポトル』を発表した「古代教会スラヴ語グラゴール文字手稿の起源」プロジェクトもこの文献だけではない可能性が高い。プロジェクト名から類推すると、グラゴール文字文献を対象とするはずなので、キリル文字文献の『エニナアポトル』だけでは物

<sup>7</sup> 古代スラヴ語訳は現存せず、『ヤロスラフ選集』(13 世紀後半)をはじめとするロシア教会スラヴ語版が 3 点、セルビア教会スラヴ語版が 1 点存在することが知られている。チェコあるいは西スラヴ起源の教会スラヴ語文献にはどのようなものがあるのか、代表的なものを取り上げて論じ、わかりやすくまとめあげたのがワインガルト (Weingart 1949) である。彼は『聖グレゴリウスの祈祷』を取り上げなかったが、その後マレシュ (Mareš 1979) は『ヤロスラフ選集の 8 つの祈り』という名称でこの文献をアンソロジーに組み込んだ。近年の研究はヴェブシェク (Vepřek 2013) が詳しく、かつ包括的である。

<sup>8</sup> 現代ドイツ語訳も含めて『医療断片』に取り組んだ代表的な研究者はローゼンションである。Rosenschon, U. 1991. „Ein glagolitisches Fragment medizinischen Inhalts.“ *Südostforschung* 50: 251-257. Rosenschon, U. 1993. „Sechste Seiten medizinische Rezepte im glagolitischen Psalter 3/N des Sinaiklosters.“ *Südostforsch. Archiv. Zeitschrift für Wissenschaftsgeschichte* 77.2: 129-139. Rosenschon, U. 1994. „Sechste Seiten medizinische Rezepte im glagolitischen Psalter 3/N des Sinaiklosters.“ *Byzantinoslavica* 55: 304-335.

足りない。できれば、19世紀にヤギチが校訂テキストを発表して以来ほぼ動きの見られない『ゾグラフィオス写本』と『マリア写本』のファクシミリ版が見たいところだが、撮影許可その他に関する所蔵機関との交渉は難しいであろう。さらに、撮影技術の高さをもってすれば、パリンプセストももっと解読できそうであるし、新たなパリンプセストが発見されるかもしれない。ともあれ、オーストリアから発信される出版情報に今後も目が離せない。

#### 参考文献

- Altbauer, Moshé. 1971. *Psalterium Sinaiticum. An 11th Century Glagolitic Manuscript from St. Catherine's Monastery, Mt. Sinai*. Skopje: Macedonian Academy of Sciences and Arts.
- Christova-Šimova, Iskra (eds.) 2022. *Apostolus Eninensis (Bibliothecae Nationalis Bulgaricae codex 1144)*. Sofia-Wien: Holzhausen.
- Kurz, Josef (eds.) 1966-1997. *Slovník jazyka staroslověnského*. Praha.
- Mareš, Francis Wenceslas. 1979. *An Anthology of Church Slavonic Texts of Western (Czech) Origin*. München: Wilhelm Fink Verlag.
- Mareš, František Václav (eds.) 1997. *Psalterii Sinaitici pars nova (monasterii s. Catharinae codex slav. 2/N)*. Wien: ÖAW.
- Miklas, Heinz (eds.) 2012. *Psalterium Demetrii Sinaitici (monasterii sanctae Catharinae codex slav. 3/N) adiectis foliis medicinalibus*. Wien: Holzhausen.
- Miklas, Heinz (eds.) 2021. *Psalterium Demetrii Sinaitici et folia medicinalia (monasterii sanctae Catharinae codex slav. NF 3) edition critica*. Wien: Holzhausen.
- Stankovska, Petra. 2015. „K fototypickému vydání hlaholského Žaltáře Dimitrijova“. *Slavia* 84: 462–468.
- Tamanidis, Ioannis C. 1988. *The Slavonic Manuscripts Discovered in 1975 at St. Catherine's Monastery on Mount Sinai*. Thessaloniki: Hellenic Association of Slavic Studies.
- Vepřek, Miloslav. 2013. *Modlitba sv. Řehoře a Modlitba vyznání hříchů v církevněslovanské a latinské tradici*. Olomouc: Univerzita Palackého.
- Vepřek, Miroslav. 2022. *Czech Church Slavonic in the Tenth and Eleventh Centuries*. München: LINCOM.
- Weingart, Miloš. 1949. *Československý typ církevní slovančiny*. Bratislava: Slovenská akadémia vied a umení. (trans. into Japanese: ミロシュ・ワインガルト著 金指久美子訳 2004 - 2008 「教会スラヴ語のチェコスロヴァキアタイプ (1)–(5)」『西スラヴ学論集』7: 139-153, 8: 74-100, 9: 117-150, 10: 116-146, 11: 85-114.)
- Мирчев, Кирил., Кодов, Христо. 1965. *Енински апостол. Старобългарски паметник от XI в.* София: Издателство на БАН.
- Северьянов, Сергѣй. 1922. *Синайская псалтырь глаголический памятникъ XI вѣка*. СПб. (rep. 1954. Graz: ADEVA).
- 金指久美子 2002. 「古代スラヴ語文献の発見と校訂テキスト出版をめぐる」『東京外国語大学論集』64: 23-44.
- 千野栄一 1989. 「新発見のシナイ山のスラブ古文書」『窓』68: 2-5.
- 千野栄一 1991a 「エニナの使徒行伝」『窓』76: 34-39.
- 千野栄一 1991b 「古代スラブ語の詩篇」『窓』77: 38-41.

執筆者連絡先 : kumiko-k@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2023年12月5日